



【 氏 名 】 川島 諒太

【 2019シーズン 担当カテゴリー 】 U14

【 2019シーズンの振り返り 】

シーズンのテーマとして掲げた『継続と変化』 U-13 から取り組んできた、止める・蹴る・運ぶ・外す。

この部分を継続して伸ばすこと。個人として、積み重ねてきたことをグループ戦術に適応していくこと。最終的に下野杯 3 位という結果で終えたシーズンは、選手の成長はもちろん。積み重ねてきたことへの自信。自分たちのスタイルで勝つ喜び。そして何よりも「もっとやれる、勝ちたい」そう強く思う勝敗へのこだわり。こういったメンタリティの部分が今シーズンの大きな成長、変化だと振り返る。

シーズン最後の結果はもちろんだが、それまでにやってきたことを大切に。

U-15 リーグ 3 部を通じて実戦の中で経験を積めたこと。環境、相手が変化していく。その中でも個でチャレンジすることを継続する。どのゾーンにおいてもまずはドリブル。パスの本数ではなく個人で 3 秒持つ。この時間で OFF の選手が考えて動く。個人で局面を打開する選手、前進だけでなく時間を構築できる選手。3 秒間の保持の時間で個性が育ったことがチームの成長の大きな要因だと考える。もちろん勝敗として結果が出なかったゲームも多い。でも、個人で時間を作ることは全員ができるようになり、攻撃の 1vs1 の優位性は多くなった。ようやく、相手によって効果的な攻め方をコーチングして伝えるようになり、こうして準備を整えて闘ったのが下野杯だった。やはり大会でも個人で局面を打開できるシーンは多く、ボールも常に保持するゲームしかなかった。ただ、僕自身がグループへの適応や効果的な攻撃を導けたゲームは少なかった。3 位という結果に終わったことは、選手はもちろん悔しいが、僕の責任も大きかったと強く感じる。しかし、3 位の結果で悔しいと分かち合えるまでに成長したことを嬉しく思う。勝利こそ掴めないことは多かったが一瞬の喜びではなく、ずっと残り続けるものを掴めそうな感覚。日々模索し

ながら、最後は必ず勝つ。ここから勝負の年。選手もコーチも勝負強くなる。個人として、チームとして勝ち続ける。最強の個から最強の組織へ。彼らの今後の活躍に期待大！日頃より矢板 SC を応援して下さる皆様へ。現在、とても息苦しい毎日が続いています。我々はそれを十分に理解し自覚ある行動することが第一です。それと同時に健康である今に感謝し、今やれることに全力で取り組むことです。活動再開は全く予測もつかないような状況ですが、必ず好転する日が来ることを願います。皆様とまた同じ目標に向かっていくこと。そして多くの人々に勇気と希望を与えていけるように、今は静かに心の火を燃やし続けましょう。今後ともたくさんの応援よろしくお願い致します！

【大胆不敵】

